

宜野座村地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）素案に対する  
意見への本村の考え方

【募集期間】令和6年2月8日～2月22日

【意見提出件数】3件（提出者数1人）

No.	該当箇所	意見	回答
1	P28	<p>一般廃棄物処理について、コンポストの導入を推進すべきです。一般廃棄物で生ごみが占める割合は大きい。またコンポストのサイズは様々で、戸建・集合住宅それぞれに設置できれば大きくごみの削減に寄与できるのではないのでしょうか。コンポストでできた堆肥は地域に街路樹や花を植えるなど、集めて環境整備に充てることができます。</p>	<p>28pの一般廃棄物処理の資料は、村の廃棄物状況の実績を表したものです。生ごみの対策については、指摘の通りコンポスター処理による削減が有効と考えております。</p> <p>その対応は、56pの「オ）循環型社会の構築、3R等の推進」の「<input type="checkbox"/>ごみの適正処理の推進・3R等の推進」で村民：…生ごみ処理機の普及、行政：生ごみ処理機の購入補助推進に示しております。なお、「生ごみ処理機」には、通常の庭置き型コンポスターや段ボールコンポスター、また、電動型のコンポスターの総称を示しており、村では電動型コンポスターの助成金の補助を行っております。</p>
2	P30	<p>電力及び再生可能エネルギーの状況について、本村には豊かな水資源があります。漢那ダムは国管理ではありますが、可能であれば小水力発電所を設置して売電もしくは公共施設などの電力として活用する。初期投資は数億円と聞きますが、売電効果は年間数千万円に上ります。環境にやさしく、持続可能な再生エネルギーが地域の水資源から生み出されれば、アピールの材料ともなります。</p>	<p>再生可能エネルギーには、太陽光発電をはじめ、洋上風力を含む風力発電、小型水力発電、バイオマス発電など各種あります。本村での対応として、44pに「取組方針1 脱炭素のむらづくりの推進」のなかで、再生可能エネルギーの利用促進等を提示しており、53pに「<input type="checkbox"/>新エネルギー導入の検討」を提示しております。</p> <p>指摘の小型水力発電の設置もこの中に含まれるものでありますが、本村に適した新エネルギーは何か、効率面、資産面、地域との合意性などについて総合的に検討が必要と考えております。</p>
3	P33	<p>温室効果ガス排出量の現状と削減目標について、村内経済の向かう道として産業に関わる部門での排出量削減は永</p>	<p>「カーボン（クレジット）市場」についての用語は示しておりませんが、関連用語として64pにコラムにてJ-ク</p>

	<p>続的には困難と考えられますが、一般廃棄物の削減が可能であれば、ガスの削減に一定の効果が認められるのではないのでしょうか。また近年では、国主導の「カーボン市場」が立ち上がり、緑地帯を有する法人であればカーボンニュートラルにかかる売買益が見込まれています。可能であれば本村北部軍用地の緑地帯でのカーボンニュートラルに取り組む自治体として、環境に特化したアピールをすることが肝要かと思えます。</p>	<p>レジット制度を紹介しております。</p> <p>緑化による温室効果ガス吸収源対策や環境保全については、62～63pに示す通り、重要な取組の一つと考えております。ただし、軍用地については、村として直接関与することが困難であるため、今計画では提示しておりません。</p>
--	--	--